

資料館だより

第 23 号
平成31年3月



《巻頭写真》砂川十番組大幟^{のぼり}（平成 30 年 7 月 29 日撮影）

背景に多摩都市モノレールが走り、新旧の立川が交差する。

（関連 2～6 ページ）

目 次

目次・巻頭写真	1
砂川の大幟について	2
市民協働と「とんからりん機織りクラブ」	7
立川市指定有形文化財「立川氏文書」の修復	8
平成30年度 資料館・古民家園の催し	9

砂川の大幟について

立川市文化財保護審議会 会長 豊泉 喜一

平成元年(1989)8月19日・20日、国営昭和記念公園みんなの原っぱと、立川駅北口を会場として「第1回立川よいと祭り」が開催され、その模様は9月3日、NHKで全国放送されました。それ以後「よいと祭り」はサンサンロード等を会場に毎年盛大に開催されてきましたが、昨年は30回目を記念して例年より規模を拡大して8月5日(日)「第30回立川よいと祭り」が盛大に開催されました。

この企画の中で第1回よいと祭りに建立された、砂川十番組の大幟を30回記念として建立しようとの計画が持ち上がり、多くの困難を乗り越え30年振りにサンサンロード脇の立飛グループの敷地に建立することができました。

この大幟は現若葉町の砂川十番組が、嘉永元年(1848)に作ったものですが、平成11年(1999)立川市に寄贈され、現在立川市指定有形文化財に指定され歴史民俗資料館に保管されています。今回30年振りに建立された「砂川十番組大のぼり」をこの機会に詳しくご紹介したいと思います。

第1回よいと祭り当時の調査では、大きさが関東一ではないかと云われた巨大なもので、幟竿の全長22m、竿の低部直径25cmの杉材で、この竿を幡杭はたぐいと云う長さ4.5m、厚さ19cm、巾52.5cm、1枚の重さ約300kgの欅材けやきの挟み木2枚を組み合わせ、合計600kg余りを1.5mほどの穴を掘って埋め、建てた挟み木の間に頂点にさかきさかき櫛しを付けた竿を立てます。

ところで今から170年前、嘉永元年、当時砂川村十番組の戸数は21戸程度で、何故この様な巨大な大幟を製作したのか、これだけ大きなものの製作費をどのように調達し、制作した大幟を人力で深い穴を掘り、重い挟み木をどのように埋め、長い幟竿をどのように立てたのでしょうか？

今回はパワーショベルで穴を掘り、挟み木や幟竿はクレーンで吊り上げるなど、機械の力がなければ立てられなかった作業を、当時の人々はどのようにして立てたのか、昔の人たちの知恵と心意気を感じました。

この挟み木の側面には唐破風から は ふう作りの飾り屋根の下に、欅材で作

られた「獅子の子落とし」と云う説話の彫刻一対が左右に取り付けられています。

この彫刻は刻印がないため作者は不明ですが、通常は立川市役所1階ロビーの奥に、砂川八番組の幟彫刻と共に常設展示されているので、機会があれば是非ご覧ください。

この建てた竿に長さ14.54m、巾2.02mの幟を揚げます。通常幟の幅は1m程であります。この幟はそれを2枚継ぎ合わせ、巾が他の幟の2倍あり、長さではもっと長いものがありますが、第1回よいと祭りの時に周辺各地の幟を調べましたが、2枚縫い合わせたものは他に例がなく当時関東一と云われた所以^{ゆえん}ではないかと思われれます。

この幟に「御祭礼」と云う三文字が書かれています。幟が大きいので、上から順次文字の大きさを小さくして、下から見上げた時同じ大きさに見える様工夫されています。この字を書いたのは隣村の谷保村(現国立市)の医者でもあり書家の本田覚庵^{かく あん}と云う人で、部落中の人々が大量の墨を磨る間、1升酒を飲みその勢いで一気に書き上げたと云う逸話が残っています。

これまでにこの大幟を揚げた記録で、現在確認ができるのは、

昭和天皇の即位のご大典を祝して昭和2年(1927)に1回、続いて昭和38年(1963)立川市と砂川町の合併の記念に建立、その次が平成元年の第1回よいと祭り^{おおよ}と併せて3回、凡そ30年に1回の割合で建立されています。

このような大幟が幕末に各地で作られていたようで、旧砂川、旧立川の他の地区でも作られていますので、この機会に現在立川市内で確認できている大幟を、別表で紹介します。この中で国営昭和記念公園こもれびの里では、万延元年(1860)に制作された砂川五番組の大幟を毎年春と秋の2回、凡そ1週間掲揚しています。最初に作られた幟は歴史民俗資料館に寄託保管されていますが、こもれびの里で現在掲げているのはレプリカです。

ここでも挟み木を毎回建てるのは大変なため、コンクリート製の挟み木が常設されていて、これを使って幟竿を立てています。元々の挟み木と中国の仙人伝説「貴長房仙人と琴を弾く王夫人」と、

「昇り龍、降り龍」の彫刻は、古民家の長屋門内に常設展示されていますので、いつでも見られます。

現在各地の大幟を立てている所

でも、立てる都度幡杭は立てず、コンクリート製の幡杭を常設してあるところが多く、彫刻は取り付けいていません。

また、現在各地に残っている大幟で実際掲揚できる物はほんの僅かで、その理由は挟み木と、長い幟竿の保管が大変難しく、十番組の幟のように昔から伝わったものが、現在も掲揚できる物はごくわずかです。こもれびの里で掲げている五番組の幟も、竿は最近新たに作ったものです。更に現代では幟を立てたくても

立てられる広場がなくなり、上空には電線などの障害物が在って、長い幟竿を立てる場所がないことも立てられない原因です。今回も立飛グループの敷地がなければ、あの大幟は上げられなかったと思われます。

昨年30年振りに、立川よいと祭り30回を記念してこの大幟が建立されましたが、この次は何時その姿を見られるでしょうか。私達の先祖が作ったこの文化財が再び掲揚できることを期待したいものです。

第30回よいと祭り大幟掲揚の記録



1. 普段、幡竿等は古民家園で保管されています。



2. クレーンで幡竿を運び出し。



3. トラックへの積み込み。



4. 赤い車に先導されて輸送中。



5. 重機で掘削した、挟み木を設置する穴。



6. 挟み木の設置。



7. 榦の取付け。



8. 幡竿の持上げ。



9. 大幟をあげる。



10. あげられた大幟。



11. 彫刻の設置。



12. 飾り屋根と彫刻。



13. よいと祭り当日。



14. よいと祭終了。
降ろされる大幟。

別表 立川と周辺の祭礼幟について

◎砂川地区(7基)

	製作年代	現所在地	幟旗の長さ	彫刻の有無	彫刻製作者
塚場	文政十口年 (1827~)	阿豆佐味天神社	1流のみ 老朽破損	彫刻なし	
四番組	万延元年 (1860)	阿豆佐味天神社	縦 10.15m 幅 0.90m	彫刻なし	
五番組	万延元年 (1860)	こもれびの里	縦 12.50m 幅 1.02m	中国仙人伝説・昇り、降り龍	後藤佐市寿信
八番組	江戸末期~ 明治初期	歴史民俗資料館	幟幡なし	波に昇り龍 降り龍	後藤徳蔵恒徳
九番組	江戸末期~ 明治初期	個人蔵	幟幡なし	七福神	後藤佐市寿信
十番組	嘉永元年 (1848)	歴史民俗資料館	縦 14.54m 幅 2.02m	獅子の子落とし	不明
中里	大正 13 年 (1924)	中里神明社	縦 11.00m 幅 1.10m	彫刻なし	

◎旧市内(柴崎村)6基

	製作年代	現所在地	幟旗の長さ	彫刻の有無	彫刻製作者
横町	天保3年 (1832)	八幡会獅子宿	縦 9.12m 幅 0.92m	彫刻なし	
山中	天保9年 (1838)	歴史民俗資料館	縦 10.10m 幅 0.92m	獅子頭 4個	不明
出口	天保9年 (1838)	不明	幟幡なし		
新屋敷	天保9年 (1838)	歴史民俗資料館	縦 9.55m 幅 1.00m 縦 9.35m 幅 1.00m	象鼻 2個	八左衛門
番場	不明	歴史民俗資料館	幟旗なし	獅子頭 4個	不明
高松	平成 14 年 (2002)	熊野神社	縦 6.20m 幅 0.63m		

市民協働と 「とんからりん機織りクラブ」

立川市は、2006（平成 18）年 8 月に策定した「立川市協働推進基本指針」に基づき、市民活動団体・地域団体・NPO などと連携・協働して地域づくりに取り組んできました。

歴史民俗資料館では、地域の歴史や文化を未来へ継承していくために、体験学習事業などを通じてさまざまな活動を行っていますが、2012（平成 24）年 10 月からは、市内のボランティアサークル「とんからりん機織りクラブ」（以下「とんからりん」）の皆さんとも協働しています。「とんからりん」は、立川市域でも江戸時代中頃には農家の副業として行われていた養蚕ようさんや機織りなどの伝統文化を伝えていくべく、会員の皆さんそれぞれが機織りの技術向上に努める傍ら、「はた織りまつり」を年 2 回開催し、文化を広めるための活動をしています（写真は第 14 回はた織りまつりの様子）。また、当館の体験学習「染め物体験」でも講師として協力いただいています。小学生社会科見学の際には、小学生への機織り指導を通じ、若い世代への地域の文化振興にも努めていただいています。

立川市域において、明治・大正期に最盛期を迎えていた養蚕・織物文化ですが、昭和に入ると衰退し、現在は養蚕農家や機織りの織元はなくなってしまいました。「とんからりん」は最終目標に、かつて市域の北部、砂川で織られていたという「砂川太織り」の再現を掲げています。現在はこの「太織り」の技術を習得すべく、会員の皆さんが目下修行中です。



季節によりますが、当館のラウンジでは、そんな「とんからりん」の皆さんが制作した作品を恒常的に展示しています。草木染めによる温かみのある織り物の彩りや風合い、斬新なデザインに誰しもときめくはず！



立川市指定有形文化財

「立川氏文書」の修復

歴史民俗資料館ではさまざまな資料を保存・管理しています。そのひとつに、立川市指定有形文化財「立川氏文書」があります。この資料は、立川市ゆかりの武士である中世立川氏に関する古文書であり、極めて重要な史料です。

「立川氏文書」は個人から寄贈された資料で、寄贈時の状態は、^{かざり}銚金具が施された漆塗りの文箱に、^{かんす}卷子が1点納められており、その卷子に9点の古文書がひとまとめに軸装されていました。軸装そのものは悪いことではありませんが、経年劣化により、文字情報の喪失が危ぶまれる程、表面の部分的な毛羽立ち・めくれが顕著で、表装の折れも目立ち、史料本紙にも影響が及ぶ可能性がありました。また、卷子の表装に使用されていた布も傷みが甚だしく、史料の利用には不向きな状態でした。

そこで、新立川市史編さん事業の一環として、平成30年度中に青梅市にある東京修復保存センターで「立川氏文書」の修復作業を行いました。

まずは斜光やマイクロスコープを用いた史料の現状確認がされ、その後の解体作業は、史料本紙に

負担がかからないよう、水を使用しない乾式による分離作業が行われました。また、毛羽立ち部分の剥落を防ぐため、作業前には文字部分の剥落止め^{はくらく}も施しています。修復の方法としては、専門家との綿密な協議のうえ、今回は糊を用いないリーフキャスティング法による修復を選択しました。修復材料には^{じんび}靱皮繊維（^{こうぞ}楮、^{みつまた}三椏の^{こんしゅう}混抄繊維）が使用され、本紙の補強作業を行なっています。解体・修復したことで、文字はより鮮明になり、裏書・裏花押の発見、過去の修繕の跡など、新たな情報の獲得につながりました。

修復後は、軸装に戻すのではなく、一紙ごとに平らな状態を保ちつつ、個別に資料を活用できるよう、中性紙フォルダでの保管に変更しました。修復の過程で除去した、過去の表装、部材（紙片）や裏打ちなども、今後の研究材料として、整理した状態で保管しています。

このたびの修復の報告を兼ね、「新収蔵品展」平成31（2019）年6月11日（火）～7月7日（日）の期間に歴史民俗資料館で特別公開します。

平成30年度 資料館・古民家園の催し

平成30年度資料館と古民家園では、企画展や体験学習などさまざまな催しを行いました。その中の一部を紹介いたします。

1. ミニ企画展 端午の節句

ミニ企画展は端午の節句や七夕などの季節の行事に関連する展示です。平成30年4月10日（火）～5月13日（日）にミニ企画展「端午の節句」を歴史民俗資料館ラウンジ・古民家園母屋において開催しました。市民の皆様からご寄贈いただいた五月飾りのほか、武者人形約80点を展示しました。



2. 企画展 “空の都、たちかわ ～立川飛行場の歩み～

立川の近現代の歴史とは切っても切り離せないのが、立川飛行場・立

川基地の存在です。基地返還から40年が過ぎたいま、その設置からの歴史をひもときました。展示期間は平成30年10月23日（火）～12月2日（日）でした。関連企画として講演会やギャラリートークを開催しました。多摩地域の戦時下資料研究会の榎崎茂彌氏を講師に迎え、講演会「立川にあった“東京飛行場、～陸軍飛行場から米軍基地へ、そして現在…～」を開催し、45名の参加者がありました。ギャラリートークは3回行い、計17名の参加者がありました。



3. 玉川上水沿いの自然観察

5月11日（金）、玉川上水駅から東京都薬用植物園まで、およそ4kmを自然観察をしながら歩く「玉川上水沿いの自然観察」を開催しました。今年度から始めた新しい講座で、講師には緑花文化士の池村国弘氏を迎えました。平日の開催ながら参加者は18名で、講師



の草花、野草、樹木についての解説を聞きながら歩きました。

4. 市内文化財散歩

柴崎分水を歩く

3月17日(日)、講師に市文化財保護審議会委員の小坂克信氏を迎え、



「柴崎分水を歩く」を開催しました。西立川駅から富士見町、柴崎町をへて柴崎体育館まで、水路を巡りながら、およそ6kmを、3時間ほどかけて散策しました。参加者は22名でした。

平成30年度企画展

展 示 名	期 間	場 所
ミニ企画展 端午の節句	4/10(火)～5/13(日)	資料館・古民家園
企画展 新収蔵品展	6/12(火)～7/8(日)	資料館
ミニ企画展 七夕飾り	7/3(火)～7/8(日)	資料館・古民家園
企画展 立川の遺跡 2018	7/24(火)～9/2(日)	資料館
写真展 立川駅前の移り変わり	9/8(土)～10/14(日)	資料館
企画展 “空の都、たちかわ ～立川飛行場の歩み～	10/23(火)～12/2(日)	資料館
東京文化財ウィーク 2018 公開事業 銅鉦鼓展	10/30(火)～11/25(日)	資料館
写真展 立川の風景と人のいとなみ ～未来に伝えたいだからもの～	12/11(火)～2/17(日)	資料館
企画展 暮らしと道具～むかしの生活～	1/16(水)～2/17(日)	資料館
ミニ企画展 桃の節句	2/5(火)～3/3(日)	資料館・古民家園

平成 30 年度体験学習

場 所	講 座 名	実 施 日	人 数
歴史民俗資料館	手打ちそば作り	6/10 (日)	34
	アカネでハンカチを染めよう (染物体験)	8/19 (日)	21
	手打ちうどん作りと十五夜飾り	9/9 (日)	33
	もちつきと鏡餅作り	12/16 (日)	29
	繭玉飾りと七草粥作り	1/14 (月祝)	21
	手打ちそば作り	2/17 (日)	32
古民家園	麦刈り体験	6/10 (日)	13
	麦脱穀体験	7/8 (日)	17
	さつま芋収穫体験	10/21 (日)	48
市 内	根川と多摩川の自然観察	4/1 (日)	10
	玉川上水沿いの自然観察	5/11 (金)	18
	市内文化財散歩 玉川上水を歩く	10/8 (月祝)	17
	市内文化財散歩 立川の古村を歩く	11/11 (日)	23
	市内文化財散歩 柴崎分水を歩く	3/17 (日)	22

平成 30 年度 講演会

名 称	会 場	実 施 日	人 数
企画展関連講演会 「立川にあった「東京飛行場」、一陸軍飛行場から米軍基地へ、そして現在……」	女性総合センター	11/25 (日)	45
多摩郷土誌フェア関連講演会 「多摩の仏教民俗」 「多摩の戊辰戦争」	女性総合センター	1/19 (土)	45 71
講演会 「多摩の方言」	女性総合センター	2/11 (月祝)	51

平成30年度 出張事業

事業名	期間	場所
出張事業 ニホンゴ探検 2018	7/14 (土)	国立国語研究所
出張講座 昔の道具体験 (市立南砂小学校 3年生)	1/24 (木)	市立南砂小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第三小学校 3年生)	2/9 (土)	市立第三小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立若葉台小学校 3年生)	2/14 (木)	古民家園
出張講座 昔の道具体験 (国分寺市立第八小学校 3年生)	2/22 (木)	古民家園
出張講座 昔の道具体験 (市立若葉台小学校 3年生)	2/26 (火)	古民家園

平成30年度古民家園茶たて事業～お茶を楽しみませんか～

回数	実施日	人数	回数	実施日	人数
1	4/22 (日)	25	3	11/17 (土)	26
2	10/25 (木)	22	4	3/14 (木)	19

平成30年度その他事業

事業名	期間	場所
第13回はた織りまつり・夏	8/26 (日)	資料館
第14回はた織りまつり・春	3/24 (日)	資料館

資料館だより 第23号

発行日 2019年(平成31年)3月31日

編集・発行 立川市歴史民俗資料館

(立川市教育委員会教育部生涯学習推進センター文化財係)

住所 〒190-0013 立川市富士見町3丁目12番34号

TEL:042-525-0860 FAX:042-525-1236